

経 済 民 生 常 任 委 員 会 記 録

平成 31 年 1 月 29 日(火)午前 10 時 00 分～午前 10 時 53 分(9 階 908 会議室)

○出席委員(9名)

委 員 長	石原洋三郎
副委員長	誉田 憲孝
委 員	佐々木 優
委 員	後藤 善次
委 員	斎藤 正臣
委 員	黒沢 仁
委 員	佐久間行夫
委 員	山岸 清
委 員	渡辺 敏彦

○欠席委員(なし)

○市長等部局出席者(なし)

○議 題

「地域密着型プロスポーツチームとの連携による地域の活性化に関する調査」

- (1) 委員長報告のまとめについて
- (2) その他

午前10時00分 開 議

(石原洋三郎委員長) それでは、ただいまから経済民生常任委員会を開会いたします。

議題は、お手元に配付の印刷物のとおりです。

地域密着型プロスポーツチームとの連携による地域の活性化に関する調査を議題といたします。

委員長報告のまとめについてを議題といたします。

昨年12月21日の委員会において、委員長報告で取り上げるポイントや課題、提言項目の整理を行いました。その際、今回の調査で確認した本市の課題であったり、市当局へ提言する項目などは、おおむねご了承いただけたものと感じております。ただし、地域資源としての活用という文言や、クラブ

が高い公益性を持つというような文言には、さまざまなご意見をいただきました。今回は、それらのご意見も踏まえながら、前回の委員会で確認した項目を基本に、正副委員長手元で委員長報告の素案を作成いたしましたので、そちらをごらんいただきながら文言などの確認、修正を行っていきたいと思います。

お手元の委員長報告の素案については、内容ごとに8つの項目に区切って記載しております。簡単に概要をご説明させていただきます。

まず、1ページの1行目からですが、1番、調査の目的、調査の経過ということで、初めに今回の調査を行った際に確認した調査の目的や調査回数、これまでの調査内容をここで記載しております。

次に、2ページの4行目からです。2番、本市も含めた県内プロスポーツの状況ということで、ここでは当局説明の際に確認した県内のプロスポーツの状況を本市の状況も踏まえ、記載しております。

そして次に、3ページの1行目からですが、3番、福島県のプロスポーツ支援の現状ということで、ここでは県内のプロスポーツの現状を踏まえた上で、福島県における支援状況やプロスポーツの位置づけを記載しております。

次に、3ページの9行目から4番、本市のプロスポーツ支援の状況となります。ここでは、当局説明で確認した本市のスポーツホームタウンのこれまでの支援の現状について記載しております。

そして次に、4ページの7行目から5番、スポーツホームタウン推進にあたっての課題に入ります。項目2から項目4番まで記載した本県及び本市のプロスポーツ支援の現状に対して、調査の中で整理した課題をここで記載しております。

まず、1点目の課題が4ページ10行目から11行目にかけて網かけで記載している福島ユナイテッドFCが市民に身近な存在となっていないという項目で記載しております。

続いて、2点目の課題が5ページ目12行目から13行目にかけて網かけ記載している福島ユナイテッドFCを地域資源として育てていくための活用が不十分という項目で記載しております。この表現は、前回の委員会で確認した際には、福島ユナイテッドFCを地域資源としての活用が不十分という表現で記載いたしましたが、皆様のご意見も加味して、育てていくための活用という形で改めさせていただきました。

次に、それらの課題を受けて、6番、市当局への提言ということで6ページ17行目から記載しております。

前回の委員会で確認したとおり3点の提言でまとめており、1点目が7ページ1行目の網かけですが、全庁的なプロスポーツチームの活用、連携についてということで記載しております。簡単に内容をまとめると、各視察先で聴取した観光にとらわれない幅広い連携、活用事例と、行政とチームの綿密な連絡体制について触れつつ、ホームタウン支援の担当部署がクラブと行政をつなぐ窓口として、クラブとの綿密な連絡体制を構築していくべきという点、クラブとどのような連携、協力が可能か改めて協議、確認の場を持ち、全庁的なプロスポーツチームの活用を促すべきという点の2項目で構成

しております。

次に、2点目の提言が8ページの5行目の網かけですが、プロスポーツチームを応援する機運の醸成についてということで記載しております。簡単に内容をまとめますと、各行政視察先での多彩な広報支援の事例を紹介した上で、その先進自治体の事例を参考に、ホームタウン自治体として、今以上に先頭に立ってクラブの情報発信や広報による支援に取り組むべきという点、本市がプロスポーツチームを支援する意義や効果を分析、整理し、市民へ発信することでプロスポーツと行政が連携することについての市民の理解促進を図るべきという点、川崎市の川崎フロンターレ連携・魅力づくり事業実行委員会による連携事例を参考に、地元の商工会や商店街、町内会などを巻き込み、全市を挙げて応援する体制の構築について検討を進めるべきという点の3項目で構成しております。

次に、3点目の提言が9ページの15行目から16行目にかけてであります。網かけでホームタウン自治体の広域化による周辺自治体との連携協力についてということで記載しております。簡単に内容をまとめますと、松本市のホームタウン自治体拡大の取り組み事例を紹介した上で、積極的にホームタウンへの参加をほか自治体へ呼びかけ、広域化を図ることで大きな集客イベント開催につなげるなど、スポーツホームタウンを共通のテーマとした周辺自治体との連携について検討すべきという点、既にホームタウン自治体となっている会津若松市とも情報交換を密にし、松本市のような自治体間の連携組織立ち上げの可能性も視野に入れ、広域での応援体制を強化すべきという点の2項目で構成しております。

以上が提言となりますが、続けて10ページの16行目をごらんください。7番、そのほかクラブライセンスの問題についてを記載しております。ただいまご説明いたしました3点の提言のほかに、今回の調査によりクラブライセンス問題も明らかになったということで、その内容を記載するとともに、ホームタウン自治体としてしっかりと県や関係団体と協議を行っていくべきということをここで記載しております。

そして、11ページ9行目をごらんください。8番、結びにを記載しております。ここでは、町田市で聴取したボランティアに関する取り組み事例とともに、今回の調査で改めてあらゆる場面にプロスポーツチームの活用可能性が潜んでいることを実感できたことや、当局へ柔軟な発想でプロスポーツチームとの連携を進めていくよう要望し、まとめを行っております。

以上、簡単に委員長報告の構成及び内容について8つの項目ごとに説明させていただきました。ここで、さらに10分ほど時間をおとりしたいと思いますので、委員長報告案の内容を各自でお読み取りいただければと思います。

それでは、10分ほどぜひ黙読していただければと思います。

【資料黙読】

(石原洋三郎委員長) それでは、10分ほど経過いたしましたので、委員長報告素案について、委員の皆様から文言の修正点などご意見を頂戴できればと思います。

なお、修正がある場合は修正文の案もご提示いただくようお願いいたします。

(黒沢 仁委員) 言うこともない、大体すばらしくまとまっていると思うのですが、7ページの15行目、週1回や月1回、必要であれば毎日と、こういった表現、もうちょっと何か別な表現あってもいいのかなという部分と、あと5ページの5行目、好不調の波という、これはこのままでいいのかな。何かもうちょっと別な表現もあるのかななんていう部分で、別に提言するあれはないです。これでいければこれでいいし。

(山岸 清委員) 総的に十分でき上がっていると思うのだけれども、私が一番感じたのは、2ページ、本市も含めた県内プロスポーツの状況、これがあるから、3ページの福島県のプロスポーツ支援の状況と、こうなっているのだけれども、これは県の状況あるいは県内プロスポーツの状況わかることは大事だけれども、今回の調査はいわば本市のプロスポーツとの連携による地域の活性化が主題だから、県内のは要らないのでないかな。委員長報告大変だから、カットしても。これは私の一つの意見だけれども。ただ、一番は県に強く求めなければならないのは、調査でもわかったようにナイター設備と観客席か、これは言わなければならない。ただ、観客席も2万人収容とか2万5,000人収容にJ3だと基準があるらしいけれども、実際3,000人のところに1,400人しか集まらないで、観客席ばかりあれしてもどうなのかなと思うけれども、やっぱりそれはあっちのJリーグの規約に合わせなければならないから、やらなければならないということで、県のほうにはそういうナイターと観客席は求めなければならないというのは最後のほうに出てくるのかな。いいのだけれども、この2ページと3ページは委員長これだけ報告するの大変だから、カットしてもどうか。ただ、やっぱり必要なのであれば、私もそれは必要だとは思います。

(石原洋三郎委員長) この部分に関して、県と市との連携もやっぱり密にしていかななくてはいけない部分もあったり、例えばスタジアムの話もやっぱり県との協議というのが必要になってくるので。

(山岸 清委員) やっぱり必要かい。

(石原洋三郎委員長) 必要性があるかなというふうに正副は考えました。

(山岸 清委員) 結構です。何かしゃべらないと居眠りしているのだろうなんて言われるから。

(石原洋三郎委員長) あと、黒沢委員のご指摘のところもちょっと……。

(黒沢 仁委員) いい表現がみんな何かあればと思って提案させていただきただけで、自分でもどう表現したらいいかわからない。

(石原洋三郎委員長) 月1回という言葉は要らないかもしれないですけれども。週1回や必要であれば毎日でもいいかもしれないですけれども。

(後藤善次委員) 内容的にはとてもすばらしくでき上がっております。まず、4ページの13行目、現状がこんな存在だということを経営しているところなのですから、17チームの中でも12番目相当の数字に当たります。要するにここは低迷しているということを言いたいわけですね。だから、もう少しこの相当という言葉を経営を例えば低い数字になっているとか、下から数えて3番目だとか、何か

もう少しこんなところにいるのだよという、そういう表現のほうが、こんなものですよみたいな、このところがポイントになってくるのかなと、人を集めるための。

（石原洋三郎委員長）下からだと6番目にはなるのですけれども。

（後藤善次委員）6番目になるのですか。では、やっぱり相当レベルでいいですかね。

（石原洋三郎委員長）12番目と低い数字にありますという、下位の状況にありますとか。

（後藤善次委員）あとは、17行目に市民とクラブという言葉が出てくるのです。それで、ここまではユナイテッドF Cという言い方をしているでしょう。フットベースクラブとは言っていないですよ。ここでクラブと出てくるので、このクラブって何なのかなという、そういう思いにならないかなと思ったのです。あとはずっとクラブでいくのです。それで、8ページに市役所内にサポーターズクラブというのが出てくるのです。この後もクラブ、クラブと続いていくのです。だから、このクラブの周知広報に努めているというふうに、サポーターズクラブを設置するなどという、このクラブが要するに明確でなくなってくる。ずっと福島ユナイテッドF Cでいくならそのままいったほうがいいし、あと最初に福島ユナイテッドフットベースクラブとかと言えば、その後クラブにしても短縮したのだなというふうに思われるのか。あとそれから、6ページの5行目、アウェー会場、それから7ページの11行目の終わりから12行目、アイデンティティー、これを例えばこの言葉を言った後に日本語で訳したものを入れてもらったほうがいいのかなと。私たちはそういうものだと思って聞いていますけれども、一般市民の方たちがこの部分を、お年寄りも巻き込んでいくとなれば、もう少し易しい言葉にしてあげたほうがいいのかな。理解してもらおうというのかな、この点を。

（石原洋三郎委員長）相手チーム会場ということですか、アウェー会場というのは。敵陣営。

（後藤善次委員）自分の会場以外ということでしょうから。

（後藤善次委員）結構ちょっと年齢かわると理解できていない。サッカーに興味がない人たちはなおさら。

（後藤善次委員）ホームグラウンドとかとはいえますね。アイデンティティー何といいます。そんなところが。

（石原洋三郎委員長）地域の愛着に対する気持ちの醸成。アイデンティティーというのは、正確に言うとうと自己確立のあれですね。直訳すると自己確立とか意識とか。

（後藤善次委員）直訳するとそういうことになるのですかね。意識の確立みたいな。機運を高めるみたいな、そういうところ。醸成することというのは。

（黒沢 仁委員）この後ろに地域コミュニティの活性化となっているから。

（石原洋三郎委員長）アイデンティティーのところをちょっと何かもししい言葉の表現があれば考えてみながら。

（後藤善次委員）直訳するというよりは意味合いを伝えるほうがいいのでしょうか。最近をよく使われている言葉だから。

（黒沢 仁委員）概念もあるし、コンセプトが概念でしょう。アイデンティティーというのは似たようなもの。

（石原洋三郎委員長）アウエー会場だと、例えば相手チームの本拠地であるアウエー会場でのとか、そんな感じですか。

（山岸 清委員）相手チーム会場いいでしょう。

（石原洋三郎委員長）相手チーム会場であるアウエー会場での選手による本市の観光PR。

（後藤善次委員）ホームグラウンドに対して何というのですかね。相手チームの名前プラスホームグラウンドという言い方するのですよね。自分のチームではなくて、相手チームのほうのホームグラウンドと。

（黒沢 仁委員）日本語ではそういう直訳するのだけれども、アイデンティティーというと何かちょっとくるんだような感じなのだろうね。日本人の耳から入ってくる。

（石原洋三郎委員長）地域の独自性ということなのですかね。

（佐久間行夫委員）余計難しくなる。帰属意識。

（後藤善次委員）そのままがいいというのだったら、それでは結構です。

（石原洋三郎委員長）あと、先ほどのクラブだと、はっきり名称で福島ユナイテッドFCならずって言い続けていたほうがいいですか。

（佐久間行夫委員）それもおかしいような気がするけれども。

（石原洋三郎委員長）あるいは、プロチームというふうにしようとか。

（斎藤正臣委員）確認なのですけども、5ページの4行目からチームが強くから6行目までの話なのですけども、チームが強い、有名選手がいるということでは長続きしませんよというのはどこの話だったかなと思ったのですけれども、どこでしたっけ、これ。どこのチームも強かったような気がするのです。

（石原洋三郎委員長）川崎だったかと思ったのですけれども。最初にヴェルディとかがいて、結局定着はしなかったとか言ってはいたから。もともと強いのですけれども。

（斎藤正臣委員）だから、やっぱり強いということって大事なことだと思うのです。強さに関しては、別にこっちのほうでどうこうはできないではないですか。やっぱりそこは絶対必要なことだと思うのです。だから、強いということを、ここではそこまで、強いだけではだめなのですよというような表現ありますけれども、私は強くなければいけないと思っているし、今までの調査事項の議論の中でもやっぱり弱いとだめだよという話がかかなりあったと思うのです。だから、この4行から6行に関しては要らないような気がしていました。これを多分削っても3行から7行目までは続くことですし、強くなっても身近な存在でなければいけないという話は成立するので、いいのかなと思ったのですけれども、いかがでしょうか。

（石原洋三郎委員長）今斎藤委員からご提案あったとおり削除したほうがよろしいでしょうか。

（黒沢 仁委員）いいね。この好不調の波もよくわからないもの。４、５、６は要らないのではないかい。

（石原洋三郎委員長）では、そのような形でさせていただきますので、強化の面から、例えば３行目で一番に取り組んできたとの話がありましたと。次に７行目に飛ぶと。さらに松本市からはと。

（山岸 清委員）いいと思います。

（後藤善次委員）７番の頭のさらにとというのは、この前の言葉があるから、さらになのかなと。だから、この頭のところは話を切りかえてこういう角度だというふうになっていかないと。

（山岸 清委員）松本市からはでいいね。

（後藤善次委員）またとか、何か話を切りかえていかないと。それに加えてとか。

（石原洋三郎委員長）７行目は、さらにとという言葉が消して、松本市からはというふうに始まるのがいいのか、あるいはその前に何か言葉を入れるのがいいのか。

（黒沢 仁委員）またとかね。簡単にはまたがいい。

（斎藤正臣委員）多分各行政視察先で似たような話があって、その中で松本市はこうだという話だと思うのです、きっと。

（石原洋三郎委員長）そうですね。最初各行政視察先においてもということで２行目で。

（斎藤正臣委員）だから、さらにがなくてもつながると思いますし、もし入れるのだったら中でもとか、そういうふうになるのかなと思います。

（石原洋三郎委員長）では、中でもということにしておきますか。中でも松本市からはという、各視察先を見た中で、中でも松本市からはということで。特にでもいいのですけれども。

（斎藤正臣委員）なくてもいいような気がする。なくても通じると思うので。

（石原洋三郎委員長）さらにとという言葉は別な言葉か、あるいはなくすかしていきたいと思います。

（後藤善次委員）機運醸成のことについて言っているわけですね。１行目のところを言っているわけだね。機運醸成にはこういうのが大事だと。

（石原洋三郎委員長）ええ。２行目で応援をしっかりと得ていくことは取り組んでいる、各行政視察先においてもということで言っていますので。そして、松本市からはという。

（佐久間行夫委員）では、強調したほうがいいのではないの。特に。応援体制が充実するとその雰囲気なんかで高まるから、チームも強くなって、来る人もふえてくると。

（後藤善次委員）重要な課題と言っているのだからね、１０行目で。

（石原洋三郎委員長）では、特にという言葉にさせていただきます。

あと、クラブは、プロスポーツチームというふうに表現するのか、福島ユナイテッドＦＣと言いつけるのか。サポーターズクラブのクラブとユナイテッドＦＣクラブのクラブの違いが明確になるように表現はしていきたいとは思うのですけれども。

（佐久間行夫委員）読めばわかるような気がする、そんなに厳密にやらなくても。

（後藤善次委員）この人たちは読めば一目瞭然判断できる。

（佐久間行夫委員）単独で見るものでないから。前後の文章。

（石原洋三郎委員長）このクラブの表現については一度正副手元で検討させていただいてもよろしいでしょうか。何とかいい表現になればとは思いますが、ご了承いただければと思います。さまざまなご意見あるので、呼び方に関しては。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

（石原洋三郎委員長）ほかございますでしょうか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

（石原洋三郎委員長）なければ、今回いただいたご意見を参考に委員長報告を修正し、再度次回の委員会で内容を確認してまいりたいと思います。

それでは最後に、次回以降の委員会の日程を調整したいと思います。

2月におきましては、2回ほど日程を確保したいと思っております。進捗状況によってもしかしたら2回ではなく1回で済むかもしれないのですが。正副の案といたしましては、2月5日の火曜日10時半からというのと、あと2月22日に議運があるみたいですので、議運が午前中でしょうから、午後1時から。金曜日午後1時からできればなと思っていたのですが、皆様のご都合いかがでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

（石原洋三郎委員長）それでは、そのように開催させていただきます。

そのほか何もなければ、以上で経済民生常任委員会を終了いたします。

午前10時53分 散 会

経済民生常任委員長 石原 洋三郎